

第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会 報告書

「市役所北エリア中間まとめ」（案）

目次

はじめに（仮）

第三期施設・周辺整備協議会のまとめ（振り返り）

1. 施設・周辺整備の基本的な考え方

2. 施設・周辺整備の方針

第四期施設・周辺整備協議会のまとめ

第1章 施設・周辺整備の目標と基本方針（仮）

1. 施設・周辺整備に取り組む必要性とその意義

2. 施設・周辺整備の目標

3. 施設・周辺整備の基本方針

(1)施設・周辺の特性とその意味

(2)施設・周辺整備の意義

(3)施設・周辺整備の3つの柱とその進め方

第2章 エコプラザ（仮称）事業

1. 設置目的

2. 整備意義・あり方

3. 整備の基本方針

第3章 市役所北エリア

1. 市役所北エリアの現状と課題

2. 市役所北エリアの基本方針

3. 市役所北エリアの整備の考え方

(1)新クリーンセンター敷地西側整備の考え方

(2)市役所北エリアゾーニング案

(3)市役所北エリアにおける利用者連携についての提案

(4)災害時のクリーンセンター事業者と地域団体との連携

第4章 周辺まちづくり

1. 周辺まちづくりの基本方針

2. 周辺まちづくりの現状と課題

3. 周辺まちづくりの整備の考え方

第 1 ～ 3 章 省 略

第 4 章 周辺まちづくり

1. 周辺まちづくりの基本方針

周辺まちづくりについても、第一期協議会の方針に沿って、「低炭素社会のモデルの実現」、「“地域力”の向上」、「まちづくりとの連携」を柱として検討を進める。

「低炭素社会のモデルの実現」

炭素排出量を減らすため、極力自家用車を使わない生活が送れるようなまちを目指す。そのためには、まず誰もが安全に、そして安心して快適に歩くことのできる歩行者空間、歩行者空間のネットワーク化が必要である。歩道のバリアフリー化、歩車分離式信号機の設置、快適なオープンスペースの整備などにより、歩きたくなるような魅力的な街並み、心地よい空間の創出を目指したい。また、自家用車を使用しなくても、歩く範囲で日常生活をまかなうために、身近に生活に必要な物を購入できる商店や、地域の人との交流の場となるカフェや郵便局があるとよい。

このエリアは、武蔵野市の中でも特に緑が多い地域である。緑はこの地域の景観的な財産となるだけでなく、低炭素化にも貢献する。緑の保全だけでなく、さらに剪定枝葉の活用などを地域レベルの取組みとして推進していく。

平成 29 年 4 月稼働の武蔵野クリーンセンターは、ごみ発電設備を導入、ガス・コージェネレーションも併設し、災害時にもエネルギー供給が可能なエネルギーの地産地消を実現する施設である。クリーンセンターを核としたエネルギーのさらなる取組みについての検討も進められており、今後エネルギー分野における公共施設間の連携が期待される。また、民間施設や各家庭においても、省エネルギー化や再生エネルギー化に資する取組みが広がることを期待する。

「“地域力”の向上」

「3 方よし」の関係性を周辺地域の公共空間全体に広げる。このエリア内には、陸上競技場・総合体育館、中央図書館、高齢者総合センターなど、多くの公共施設が集積しているが、それぞれの施設利用

者同士や施設利用者と周辺住民とのつながりや接点が希薄で、時には、快適に同じ空間を共有することができないことがある。施設を利用する人、このエリアに暮らし、それを見守る人、通りかかる人の誰もが快適に公共空間を共有できる仕組み、利用方法が望まれる。また、各施設の境界部分においては、各施設の利用者同士や周辺住民との融合を図るため、施設を開き、開かれた空間同士をつなぐ、なじませるなど、中間領域的な設えとしたい。例えば、すでに完成した武蔵野クリーンセンター工場棟東側の公開空地「コミュニティスペース」は、中央通り、市役所前の公開空地に接する形で公開され、さらに「エコマルシェ」などのイベント広場としても活用され、「まちとつながるクリーンセンター」を体現している。

緑町コミュニティセンターでは、2階を予約がないときに原則自由利用にすることや、「ひろば利用」という、貸出時間中テーマに関心がある住民であれば自由に出入りできる、ひろば型の新たな貸出し方法の検討を行い、試験的に実施してきた。

また、グリーンパーク商店会では、「軒先フェスタ」が催され、MIDOLINO_が整備されている。グリーンパーク商店会は、長年このエリアの住民の生活を支えてきた商店会であるが、大型スーパーの進出や、商店会の店主の高齢化などにより、最近ではシャッターが下りたまの店舗が目立つようになってきている。「軒先フェスタ」では、シャッターが下がる店舗の軒先も含め、様々な商品が陳列され、多くの人で賑わい、一時的に商店会に活気があふれ、さらに広がりが期待される。空き店舗を活用して整備したシェアキッチン MIDOLINO_は、利用者による様々な催しで、これまでになかった賑わいを生み出している。

けやきコミュニティ協議会のナイトウォーク、緑町三丁目町会による町内パトロールは、住民による自主的な防犯活動として長年取り組まれ、犯罪のない地域社会づくりに貢献してきた。住民同士顔の見える関係を育むことで、地域の防犯性を高めていくことに今後さらに力を入れていくことが重要になる。

このような関係性は防災にも寄与する。このエリアは、自主防災組織が多くあり、市内唯一の災害時においてもエネルギー供給可能な緑町コミュニティセンターがあることから、このポテンシャルを活かし、防災面でも住民、利用者、通りがかりの人が相互に支え合うことのできるまちを目指す。

「まちづくりとの連携」

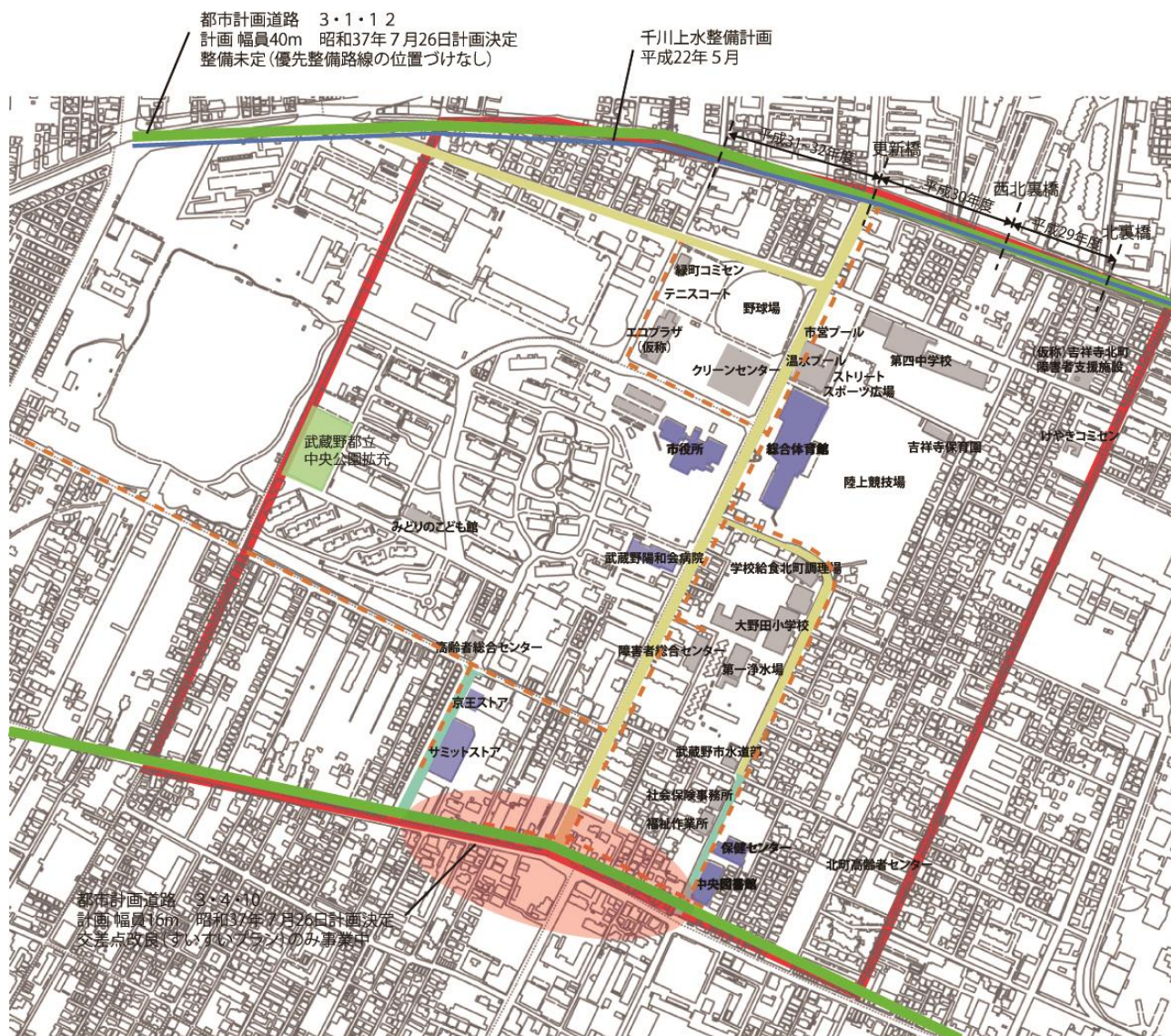
このエリアでは市民が東京都や武蔵野市とともにまちづくりを進めてきた経緯がある。例えば、都立中央公園と武蔵野市民公園を結ぶ緑の回廊として、都営アパート建替えにより創出された空き地を中央公園として拡充することができた。変電所を含む歴史の継承として、公園拡充部分に解説板の設置や当時の DNA を引き継ぐシンボルツリーの移設も行政と連携しながら実現させてきた。また、中央通りや市道第41号線は景観整備路線に位置付け、電線類の地中化の検討を進めることになっている。現在進行中の千川上水は整備計画においても、市民の意見を取り入れ、魅力的なまちづくりをしていくことが望まれる。また、このような市民と行政の関係性を今後も維持し、さらに NTT 武蔵野研究開発センターとの連携を深め、まちの魅力を高めていく。

2. 周辺まちづくりの現状と課題

エリア内の現状を整理し、課題を共有した。東京都、武蔵野市の都市計画に関する計画を確認し、防災、アメニティ・バリアフリー、緑、エネルギー、コミュニティの 카테고리ごとに整理した。

(1) 都市計画に関する計画について

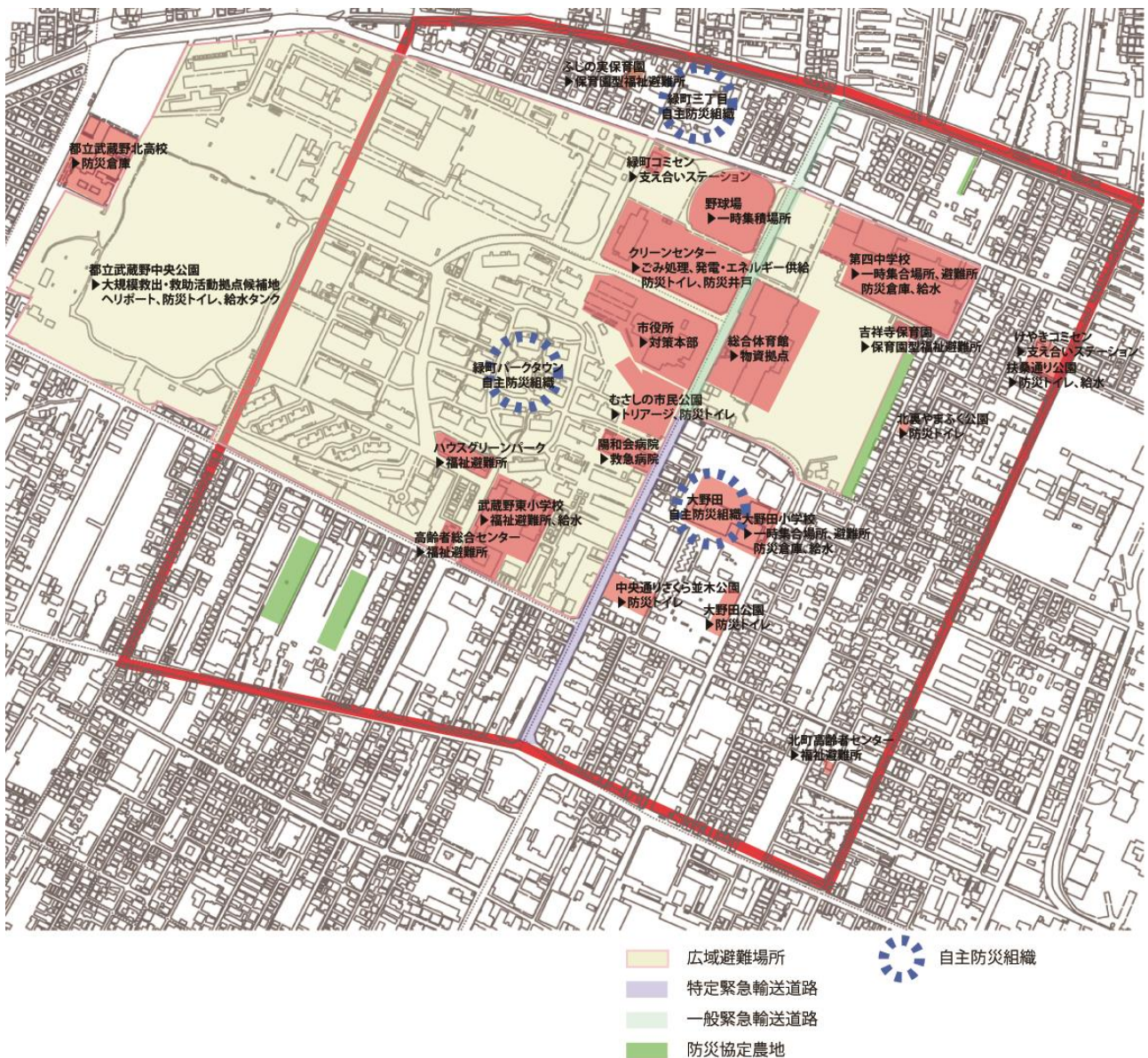
エリア内における東京都、武蔵野市のまちづくりに関する計画を整理した。



- 景観整備優先路線(実施済)
- 景観整備優先路線(計画)
- 都市計画道路(計画決定/事業中)
- 生活関連施設(バリアフリー基本構想)
- 生活関連経路(バリアフリー基本構想)
- 千川上水整備計画

(2) 防災について

災害時に災害対策本部が設置される市役所を核とし、災害物資の搬出入拠点となる総合体育館、災害時のがれき置場（一時集積場所）となる野球場、災害時においても電力供給が可能なクリーンセンターなど、災害の際になくしてはならない施設が集積している。さらに、このエリア内の多くが広域避難場所に指定され、地域の自主防災組織の活動も活発である。これらの現状から、緊急車両の通行確保のため、市道第 17 号線の街路樹（桜の老木）の植え替えなど、核となる施設間を結ぶ導線の安全性の確保が望まれる。電線類の地中化やブロック塀の生け垣化などが進むことで、より一層の防災面の強化が期待される。



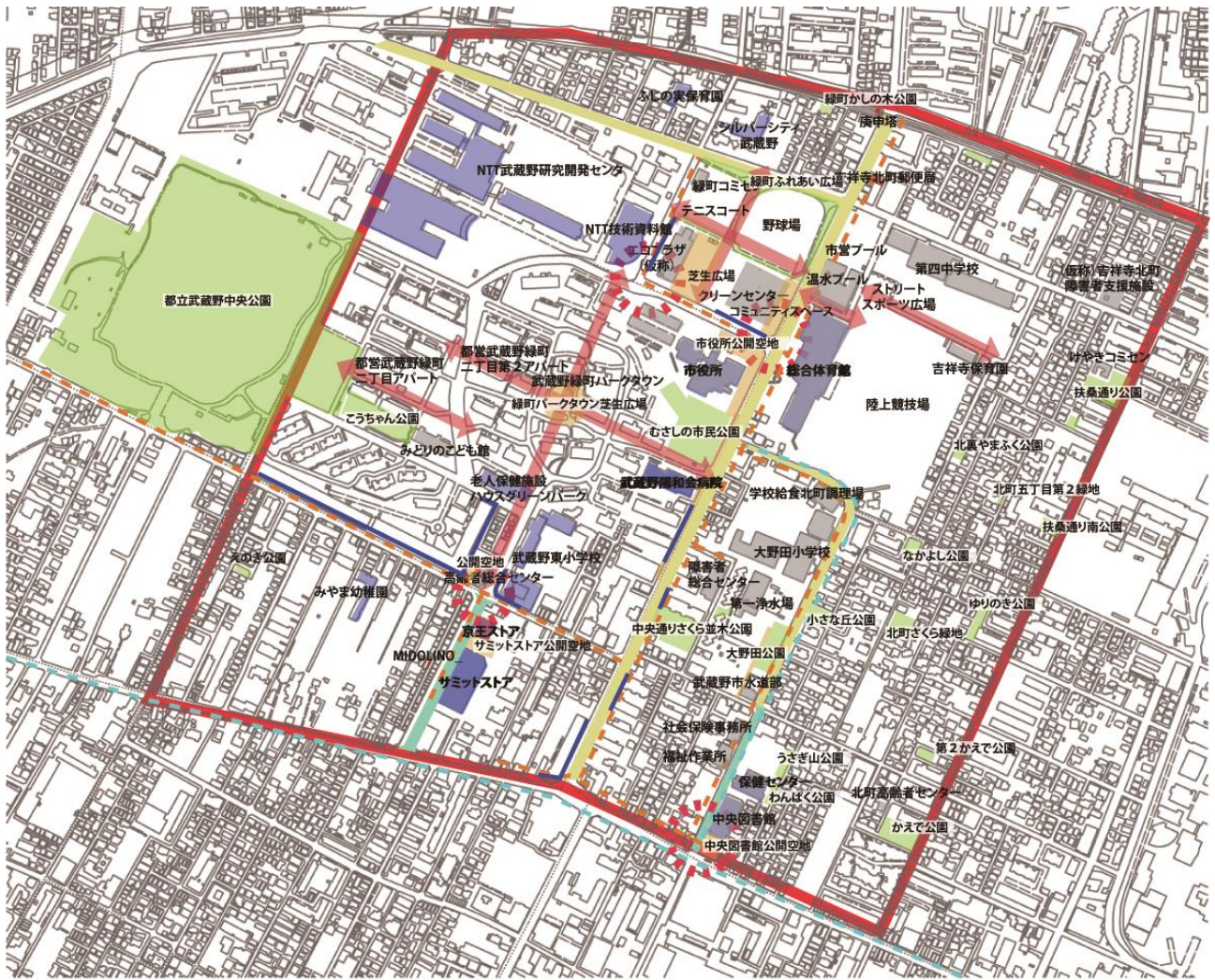
(3) アメニティ・バリアフリーについて

公共施設が集積しているエリアであることから、公共施設間を結ぶ経路のバリアフリー化の計画が進んでいる。また、比較的まとまった土地も混在していることから、市の公園、公共施設内の公開空地だけでなく、武蔵野市まちづくり条例に基づく公開空地、自主管理公園、歩道状空地など、民間の敷地内にも都市のアメニティを高める空間が多く創出されている。

特に、緑町パークタウン・都営緑町アパートの敷地内には、緑豊かな敷地内に、都市軸を意識した歩行者通路が計画されており、このエリア内の回遊性に寄与している。また、クリーンセンターや市役所、中央図書館などの公共施設の敷地内の広場が辻的な役割を担っており、交差点のにぎわい創出につながっている。今後、エコプラザ（仮称）とNTT技術史料館との連携を深め、クリーンセンター敷地南西角も辻的な空間として整備を推進したい。さらに、これらの空間のネットワーク化や接道部分を開かれた設えとすることに配慮していきたい。

一方で、車や自転車、歩行者の移動が混在し、安全性や快適性に課題がある場所も存在する。商店会への車両制限や、自転車ナビマークのネットワークの拡張が進むとよい。

また、公共施設が集積している特性を活かし、駐車場や会議室の相互利用により、公共空間の有効利用の推進を図っていきたい。



- 歩行者の軸
- 景観整備優先路線(実施済)
- 景観整備優先路線(計画)
- 公園
- 生活関連施設(バリアフリー基本構想)
- 生活関連経路(バリアフリー基本構想)
- 自転車ナビマーク
- 公開空地
- 歩道状空地
- ⊙ 辻(交差点のにぎわい)

(4) 緑について

都立公園や公共施設の存在、また民有地においても比較的まとまった土地が多いことや、桜並木などの存在から、武蔵野市の中でも緑被率が高いエリアである。特徴的な緑として、中央通りの桜並木、千川上水、中央公園、緑町パークタウンが挙げられる。

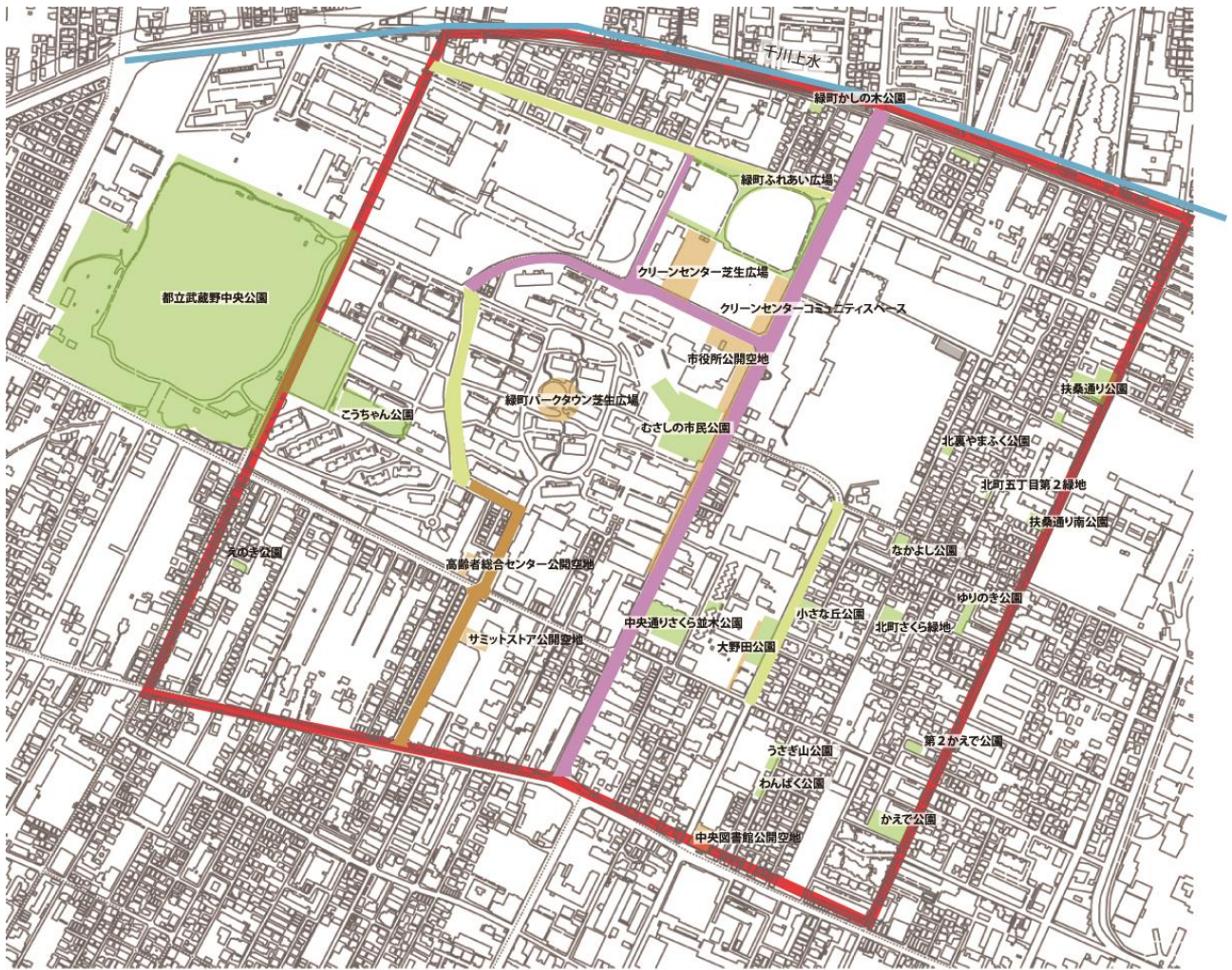
中央通りの桜並木は、市民に長年にわたって親しまれており、緑の軸にもなっているが、樹齢60年を迎えているとされ、市では安全面の観点から、植え替えを進めている。

千川上水は、水と緑のネットワークを形成するだけでなく、市民の散策や散歩道として親しまれている。市も「千川上水整備計画」を策定し、親水空間の整備を推進している。

中央公園は広々とした原っぱが特徴的で、市民参加の議論を経て整備がなされた。元々は、中島飛行機の工場であったところが、米軍宿舎となり、昭和46年に返還され、昭和53年8月から暫定利用としての全面開放が実現し、このときから原っぱとして市民に親しまれるようになった。公園整備の計画が進むにつれ、原っぱ存続を訴える運動が生まれ、議会や市も市民と一体となって「原っぱ保存」を求め、原っぱ公園の整備が実現した。原っぱは、現在でも子どもたちの貴重な遊び場となっている。さらに、都営武蔵野緑町二丁目アパートの建替え時に発生した空地为緑懇話会などの働きかけもあり、都立武蔵野中央公園の一部として平成30年度に拡充した。

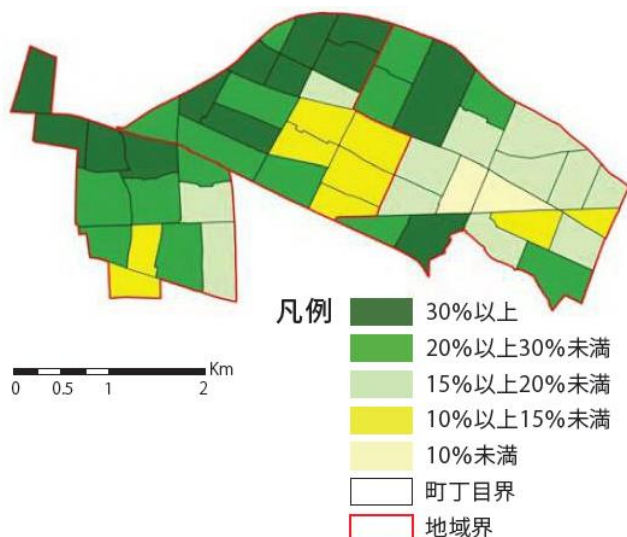
緑町パークタウンは、敷地内には多様な緑がある。建替え時になるべく既存の樹木を残したことや、生物多様性を意識した植栽計画がなされたことにより、豊かな緑の空間が形成されている。敷地内の遊歩道からこれらを楽しむことができる。また団地の中央に位置する芝生広場は、元々野球場があった場所であるが、歩行者ネットワークの結節点として、子どもたちの遊びの場として機能する他、併設する集会所とともに夏祭りなど地域の交流の場としても活用されている。

今後も緑豊かな地域であり続けるために、公共施設だけでなく民有地においても緑を守り、育てる必要がある。また、樹木の管理は住民と行政が連携しながら進めており、落ち葉や剪定枝葉の資源化についても積極的に取り組む。



- 公園
- 公開空地
- さくら並木
- かつら並木
- いちょう並木

緑被率（平成 29 年度調査）



(5) エネルギーについて

市役所、クリーンセンター、NTT 研究開発センタなどの大規模事業所があることが影響し、このエリアのエネルギー需要は、市内の他のエリアに比べ高い傾向にある。低炭素社会のモデルの実現のため、省エネルギー、再エネルギーを推進する必要がある。

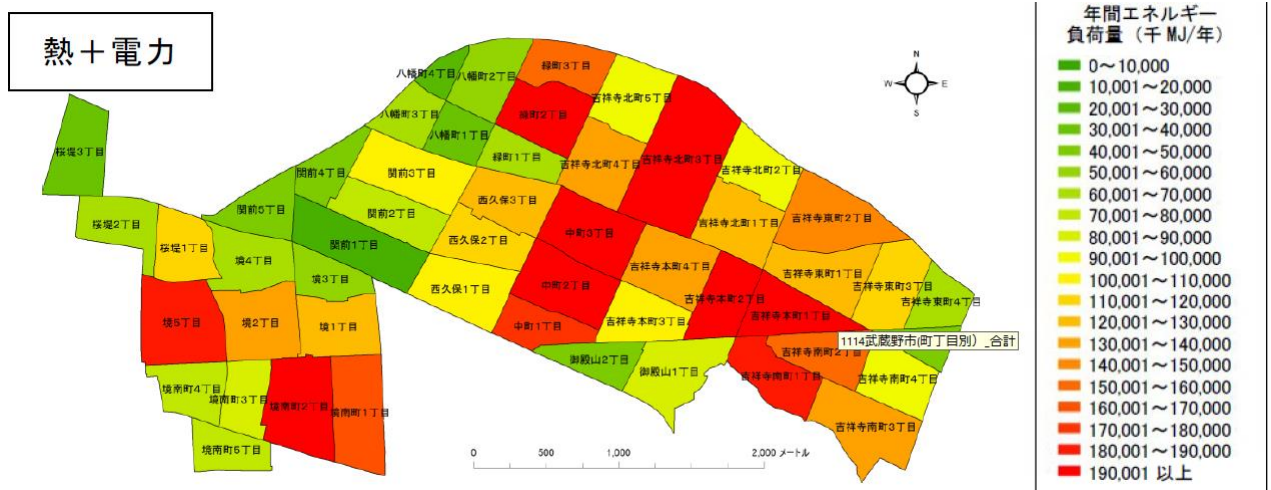
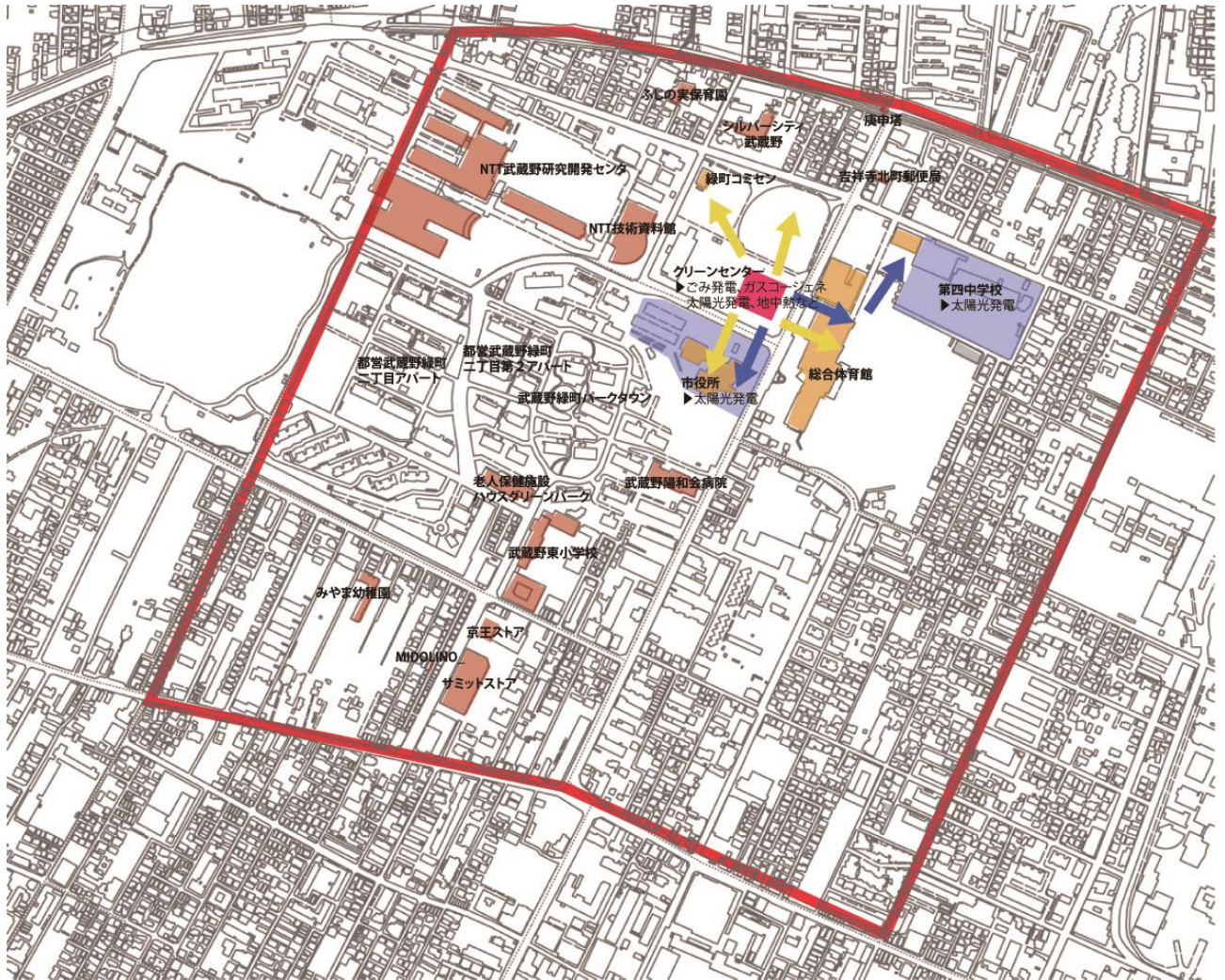
平成 29 年 4 月に本稼働したクリーンセンターでは、ごみ焼却により発生する排熱を活用した発電設備を搭載し、エネルギーの地産地消モデルとして、市役所、総合体育館などの周辺公共施設へのエネルギー供給拠点としての役割も担っている。その他の公共施設では、大野田小学校の燃料電池、太陽光発電パネルが整備されている。今後整備されるエコプラザ（仮称）では、太陽光発電パネルの設置、蓄電池の設置が予定されている。また、エリア外ではあるが、むさしの自然観察園では、実験的に地中熱を活用した空調も導入されている。

武蔵野市では、クリーンセンターをエネルギーの地産地消の核として位置付けており、エネルギー供給の発展的取組みについての検討を進めている。今後エネルギー分野における公共施設間の連携が期待される。

一方、民有地については、現状把握が難しかったが、市の補助制度を活用して、太陽光発電やガス・コージェネレーションを設置した住宅を確認した。補助制度を活用しての整備はあまり多くはなかった。

このエリアには、NTT 研究開発センタなど、比較的規模の大きい民有地が残されていること

から、今後環境にインパクトのある開発が行われる可能性もある。低炭素社会モデルの実現という目標に向けて、エリア内で建築する際には、低炭素化への貢献を具体的に求めていくようにする。



武蔵野市エネルギー消費状況 (「新たなエネルギー活用検討委員会」報告書 平成24年度より)

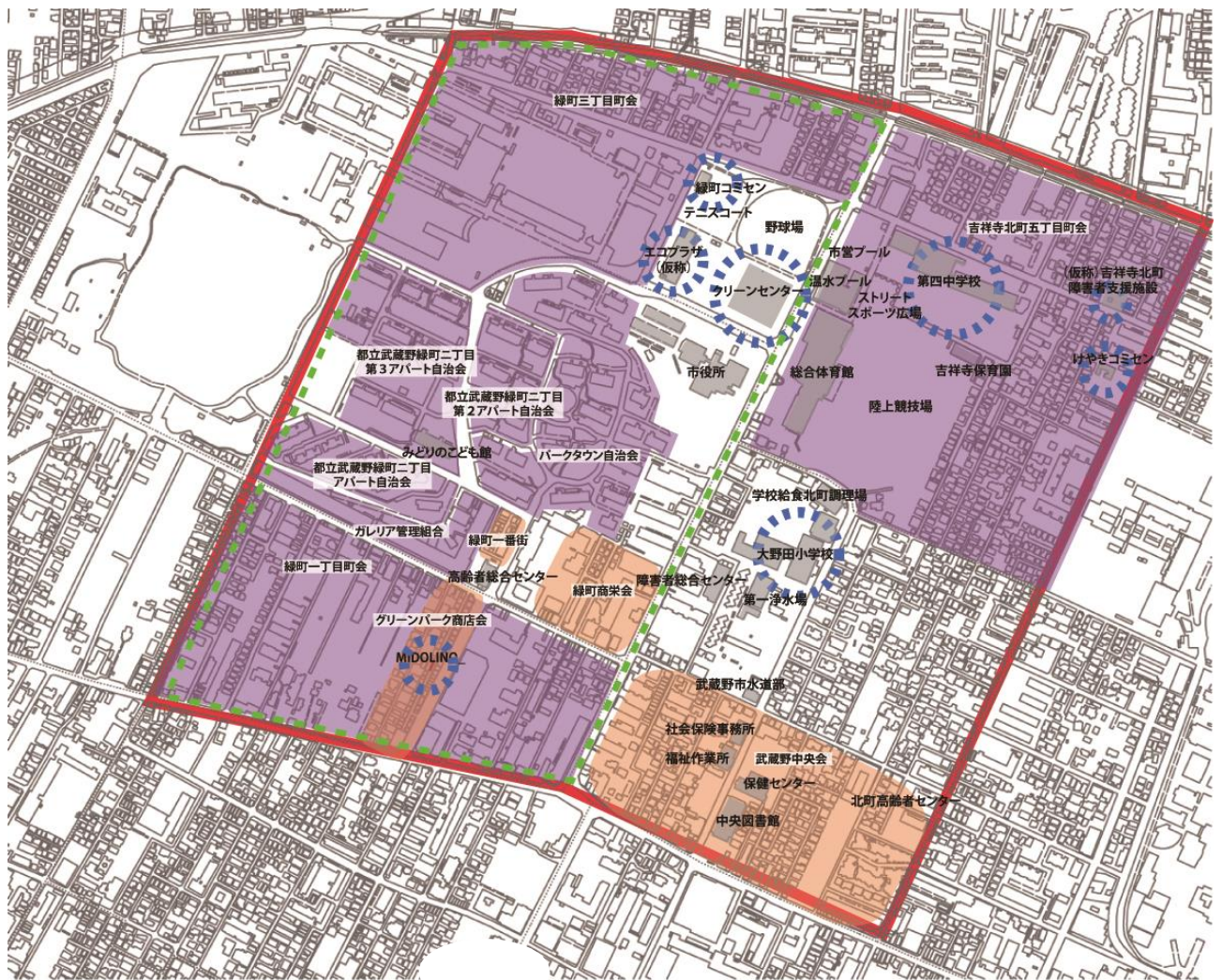
(6) コミュニティについて

緑町コミュニティセンター、けやきコミュニティセンターを核とした地域コミュニティ、緑町パークタウン、都営緑町アパートの自治会、商店会など様々なコミュニティが存在している。緑町コミュニティセンター、けやきコミュニティセンターは、初代クリーンセンターの建設がきっかけとなり生まれた施設である。それぞれ、経過は異なるが、30年あまりの間、大切に地域コミュニティを育む拠点としての役割を担ってきた。けやきコミュニティセンターについては、7年間にもわたる市民運動の成果により整備された施設であり、その7年間の間に蓄積された知識やネットワークが現在の運営に活かされている。

緑町については、緑町3丁目町会、緑町コミュニティ協議会、都営武蔵野アパート自治会、第2アパート自治会、緑町パークタウン自治会、緑町一番街、ガレリア管理組合、緑町一丁目町会、高齢者総合センター、グリーンパーク商店会、緑町商栄会により構成される緑懇話会がある。

クリーンセンターの運営協議会も、一つの広範なコミュニティと言える。初代クリーンセンター建設を契機に育まれたコミュニティをこれからも大切にしていきたい。

クリーンセンター建設をはじめ、まちへの課題が生じるたびに、対話をし、課題解決を図ってきた地域である。対話の度に新たな人と人とのつながりが生まれ、コミュニティが育まれてきた。現在進行中のNTT 研究開発センタ増築計画においても、緑町三丁目町会とのつながりが生まれつつある。まもなく竣工を迎える（仮称）吉祥寺北町障害者支援施設も地元住民と施設運営者との運営協議会が設置されることになった。新たにこの地に入ってきた人と元々この地にいる人との融合し、多世代間の連携、様々な主体に横串をさしていくことにより、連携を深め、湿潤させていくことが重要である。これらのコミュニティを継承し、人と人との対話を通じてコミュニティを育むとともに、まちづくりへと発展させつづけていきたい。



- 町会・自治会
- 商店会
- 緑懇話会



コミュニティ形成に関わる施設

(7) 周辺団体の想い

平成30年8～10月に、周辺団体へ事務局がヒアリングを行い、各団体の歴史、想いをうかがった。その内容を整理したものが下表である。ヒアリングの議事要旨は、参考資料●に添付。

※資料2を挿入

3. 周辺まちづくりの考え方

施設・周辺整備協議会においては、このエリアの現状・課題を共有し、ゆるやかにまちづくりの考え方をまとめた。今後は、この協議会で定めた基本理念、基本方針、目標に沿って、個々に各地域で推進していくものとする。

■周辺まちづくり検討案

